

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人福井県文化振興事業団	
施 設 名	福井県立音楽堂(ハーモニーホールふくい)	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	16,726	(千円)
	公 演 事 業	10,437 (千円)
	人 材 養 成 事 業	3,446 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,843 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ベートーヴェン生誕 250 周年記念シリーズⅠ ディルク・カフタン指揮 ボン・ベートーヴェン交響楽団	2020年6月19日 (中止) ※	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	1,165
		大ホール		実績値	- ※
2	オーケストラで聴く映画音楽 藤岡幸夫指揮 関西フィルハーモニー管弦楽団 ヴァイオリン:黒川 侑	2020年9月25日	指揮:藤岡幸夫 ヴァイオリン:黒川 侑 管弦楽:関西フィルハーモニー管弦楽団	目標値	986
		大ホール		実績値	578 ※
3	ベートーヴェン生誕 250 周年記念シリーズⅡ 私のベートーヴェン「悲愴」「月光」「熱情」	2020年10月24日 ※ 2020年10月25日	ピアノ(越のルビーアーティスト):竹内真紀、谷口佳奈香、仲谷理沙	目標値	415
		小ホール		実績値	562
4	ベートーヴェン生誕 250 周年記念シリーズⅣ ベートーヴェンの室内楽～楽聖が愛した響き～	2020年12月1日	企画構成、解説:小宮正安 フォルテピアノ:小倉貴久子 管弦楽:オーケストラ・アヴァン=ギャルド	目標値	342
		小ホール		実績値	271 ※
5	《ニューイヤーコンサート 2021》アンドレア・バッティストーニ指揮 東京フィルハーモニー交響楽団 ソプラノ:吉田珠代	2021年1月17日	指揮:アンドレア・バッティストーニ ソプラノ:吉田珠代 管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団	目標値	986
		大ホール		実績値	659 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	越のルビーアーティスト育成事業	①2021年2月21日 ②2020年9月20日 ～11月5日 ※ ③2021年3月21日 ④2020年4月1日 ～2021年3月30日	①公開オーディション ②若い芽コンサート2020 ③福井県新人演奏会2021 ④越のルビーアーティストバンク	目標値	1,025
		①②③小ホール 他 ④県内各地		実績値	1,009
2	福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー事業	①2020年10月5日 ～2021年3月19日 ②2020年5月4日 (中止) ※ ③2020年12月22日 ④2021年3月20日	①福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー ②いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭 ※新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 ③東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる特別クリニック ④ジュニアが輝く!“音楽の森”コンサート2021	目標値	25
		①小ホール、練習室 他 ③④小ホール		実績値	21

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	乳幼児への鑑賞と体験機 会の提供	①2020年11月1日 ②2020年11月18日、 2021年2月17日、 2021年3月10日	①秋の子ども音楽会 出演：山口梨恵(ヴィオラ) 他 ②ハーモニーぴくにつく 出演：高橋かほる(ピアノ) 他	目標値	1,410
		①②大ホール		実績値	920 ※
2	音楽愛好家への学びと発 表の場づくり	①2020年9月26日 ②2020年11月26日 ※ ③2020年11月21,22日 200年12月6日	①黒川侑アウトリーチ・クリニック ②金管アンサンブル・クリニック ③ベートーヴェン生誕250周年記念 シリーズV「みんなのベートーヴェ ン～ピアノ・マラソン～」	目標値	500
		①武生高等学校 ②③小ホール		実績値	353 ※
3	大人世代のための学びと 鑑賞機会の提供	①2020年6月19日 (中止) ※ 2020年11月6日 ②2020年12月22日 ※ 2021年3月16日 ※	①ビジネスパーソンのためのクラシ ック音楽アカデミー ②ブンカさろん	目標値	390
		①ザ・グランユアーズフクイ ②小ホール		実績値	352 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

「音楽文化の振興により地域・人・経済の活性化をはかり、豊かな心と知性の情勢と地域への愛着と誇りを創出する」という社会的役割（ミッション）のもと、地域のリーディングホールとして、公演事業・人材養成事業・普及啓発事業を有機的に結び付け、事業を展開した。

公演事業のフラッグシップとして予定していた海外オーケストラの公演は、COVID-19 禍により公演中止（公演事業1）となったが、7月末から収容人数を段階的に増やししながら、国内演奏家による公演を継続して実施。公演再開に先立ち発表した当事業団の感染症対策指針と行動基準が拠り所となり、鑑賞者、演奏家、スタッフが安心感をもって公演に向き合える環境整備を達成した。

人材養成事業と普及啓発事業では、特にセミナー形式の事業において、参加者の安全確保のため規模の縮小をせざるを得なかったが、設定目標に基づいた内容変更での対応により、事業を推進した。地域ニーズを捉え、公演事業では生演奏にこだわり行わなかった動画配信。地域住民が多く参加するピアノ・マラソン（普及啓発事業2）では、家族の出演する姿を観たいという希望に鑑み、初のインターネットライブ配信を行った。地理的に来場が困難な地域や年齢層への訴求もはかられたとともに、スタッフの学びの機会ともなった。

COVID-19 の影響を受けて、予定通りに事業を進めることはできなかったが、多くの事業は当初からローカライズされて組み立てられたオリジナル企画だったため、当館が先導しての迅速な判断や柔軟に対応をすることができ、その影響を最小限に抑えることができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

・次の地域ニーズをカバーする、特色ある事業を実施した。

- ① 世界一流の芸術にふれる機会：世界トップクラスの舞台芸術への扉の役割を果たすため、優れた芸術を鑑賞できるだけでなく、優れた技術にふれたり学んだりする機会を提供
- ② 未来を担う音楽人材の育成：地域の子供たちに音楽との関わりで豊かな心を醸成するための事業を継続的に実施。未来の鑑賞者育成の視点も取り入れて事業を展開
- ③ 地域の文化活動への支援：実演家や鑑賞者を育成するのみではなく、地元企業の文化活動への支援体制を整えていく独自の「福井モデル、福井ブランド」を推進

・課題としている大人世代の鑑賞者掘り起しにも取り組み、多彩で優れた音楽公演を展開するとともに、生涯学習の視点からオリジナルの普及啓発型事業を実施。芸術文化の講座を据えた社員研修を企業との連携で継続開催することで、経済活性化にも寄与した。

・地域の音楽人材育成に粘り強く取り組んできた当館の強みともいえる、アーティストバンクの登録アーティスト（越のルビーアーティスト）を公演事業・人材養成事業・普及啓発事業にわたって活用。演奏家が主体的に活動する機会を拡充し、地域住民が優れた文化芸術を身近に鑑賞できる機会を提供した。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

[指標①]20代、30代の来場率を13%まで増加させる（公演来場者アンケートによる集計調査、任意回答）

平成29年度 10.9%/平成30年度 11.6%/令和元年度 10.6%/令和2年度 19.8%(※)

※分母(回答数)が少ないため信頼性には疑問が残る。

[指標②]学生券の販売率を16%まで増加させる

平成29年度 12.1%/平成30年度 15.0%/令和元年度 11.4%/令和2年度 8.7%

[指標③]県外からの来場者率を4.5%まで増加させる（チケット販売システムによる集計調査）

平成29年度 3.2%/平成30年度 4.2%/令和元年度 4.0%/令和2年度 2.6%

[指標④]新規来場者率を16%まで増加させる（アンケートによる集計調査）

平成29年度 15.7%/平成30年度 13.6%/令和元年度 12.7%/令和2年度 9.9%

・COVID-19 拡大防止対策から、記入時、回収時の接触を減らすため、アンケートのスタイルを記入式からオンラインに変えたところ回答数が激減。アンケートによる解析①、④は過年度実績との比較が困難であった。

・助成対象公演4公演中3公演はチケットが売り切れ、うち1公演は追加公演を開催、4公演の着券率は93.8%を記録。各公演一週間前に、COVID-19 拡大防止対策に係る文書をチケット購入者全員に送るなど「見える対策」を行ったことで、来場者に安心感を与えることができ、着券率に繋がったと考える。

・県外客の来場については、隣接県（石川・滋賀・岐阜・京都）でも感染者数が増加していることから、コンサートなど人が多く集まる機会への参加を自粛している住民、企業が多い。この背景から積極的な販促、県外への広報は難しいものの、<After コロナ>を見越した方法を考えていきたい。

【人材養成事業】

対象2事業各々に指標を設定し、COVID-19 禍の中、【1】越のルビーアーティストバンク登録者数（50人→実績51人）、【2】福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー付随イベントの実施件数（3件以上→実績3件）を達成できた。その他の指標とそれに基づく目標である<①越のルビーアーティストの実演機会提供>、<②県内で弦楽器を学ぶ子どもたちのための学習及び、演奏機会提供>を達成すべく、開催時期・期間の検討をはじめ、県外から来県する講師・アーティストにはPCR検査と2週間の検温等健康観察を求め、全ての関連事業を開催できるよう調整して実施した。

COVID-19の影響で今後も難しい状況が続くが、音楽を愛する子どもから大人まで、演奏・学ぶ機会を広く提供できるよう、引き続き努めたい。

【普及啓発事業】

総ての県民にとって「マイホール」の存在になるよう、【1】乳幼児への鑑賞と体験機会の提供、【2】音楽愛好家への学びと発表の場づくり、【3】大人世代のための学びと鑑賞機会の提供のカテゴリーに分けて、各事業を実施。【3】のひとつ「ビジネスパーソンのためのクラシック音楽アカデミー」では、海外オーケストラ公演中止に伴い、関連して行う予定のアカデミーも中止、一回のみの開催となったが、地元企業の協力により2つの指標（広報連携体制3箇所→7箇所 | 参加企業数・人数 80社、220人→124社、157人）を達成することができた。

また、【1、2】に係る指標は、COVID-19 拡大防止対策から定員など規模を縮小せざるを得ず、参加者数は目標を達成できなかった。助成を受けたことで新しい企画「みんなのベトーヴェン」を開催することができ、オンラインでの配信も実施できた。また例年、園児（団体）が9割を占める「ハーモニーぴくにつく」では、COVID-19の影響で団体からの申込みが激減したが、申込手段をFAXに加え、WEBフォーム利用を増やした結果、家族単位での個人を多く受け入れることができたことから、将来の顧客となりうる世代を取り込める機会となった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間、事業費いずれも、COVID-19 拡大防止対策のため当初の計画から全体的に大きく見直した。事業開催にあたっては、最優先事項である来場者・参加者の安全を考慮したうえで、事業ごとの特徴・特色・ニーズを踏まえ軌道修正しており、中止や COVID-19 禍での開催に伴う定員削減等により、目標したアウトプットに達しなかった事業もあるものの、総じて適切であったと考える。

■事業期間

【公演事業】 国内の感染症関連情報を注視しつつ、チケット発売・告知に最低限必要な期間をふまえ公演を開催決定したため、例年の3ヶ月から2ヶ月に告知期間を短縮し、集中的に広報を行った。(※印のついた人材育成事業、普及事業も同様)

事業1 / 中止 事業3 / 早期完売したことから2回公演とした。

事業4 / 海外奏者から、比較的認知度が低い日本人奏者に変更したため、特に集中的に広報を行ったものの、51.7%の入場率であった。

【人材養成事業】

事業1 / ②③事業進行は計画的であった。(※)

事業2 / ①募集・開講を延期。 ②中止 ④事業進行は計画的であった。(※)

【普及啓発事業】

事業1 / ①(※) ②募集期間を2ヶ月から1ヶ月に短縮。また、座席数を各回350席から200席に削減。

事業2 / ②当初、講師に公演事業4の海外奏者を予定していたが来日不可のため内容を変更して開催。
③席数削減 (※)

事業3 / ①< I >開催中止 ②出演者変更、延期開催

■事業費

金額の大小はあれ、全体的に COVID-19 禍に起因する出演者変更や人数調整のための支出増減、ならびに、広報見直しに伴う支出増減が発生した。

【公演事業】 感染症対策のため席数を制限(事業2・3・4 : 50%、事業5 : 70%)にした結果、来場者数ならびに入場料収入が当初の予定から減った。(事業3を除く)

事業1 / 中止に伴い支出減、収入なし。 事業2 / 上記の理由により、収入減となった。

事業3 / 2回公演としたため、収入増となった。支出面は、出演料・調律費・広告費が増えたが、出演者打合せを対面からリモートに切り替えたことにより、旅費・宿泊費が不要になり相殺することができ、公演全体で25千円の支出増となった。

事業4 / 出演者変更に伴い、出演費・楽器運搬費や、告知のための広告料等追加計上のため支出増。チケット収入は当初の予定には及ばなかったが、助成により短期間での集中的な広報が可能となった。

事業5 / 感染症対策に伴う出演団員縮小のため、出演料・旅費・宿泊費の支出減。収入面は、Go to イベント助成金の追加計上があるものの、70%の入場制限、チケット料金変更に伴うチケット収入減により全体的に収入減となった。

【人材養成事業】

事業2 / ①感染症対策を考慮した開講期間短縮に伴うセミナー回数削減により、旅費、謝金の支出減となった。
②中止に伴い、旅費・謝金・諸経費の支出減となった。

【普及啓発事業】

事業1 / ①②感染症対策を考慮した出演者・リハーサル・点検など再調整により支出減となった。

②助成採択後、地元企業の協賛決定により、収入増となった。

事業2 / ②もともと講師に公演事業4の海外奏者を予定していたが来日不可のため、内容を変更して開催したため、講師料の支出減、ならびに参加費の収入減となった。

事業3 / ①< I >開催中止に伴い講師謝金・宣伝費等の支出減となった。

上記に挙げた事業以外については、当初の計画通りであった。

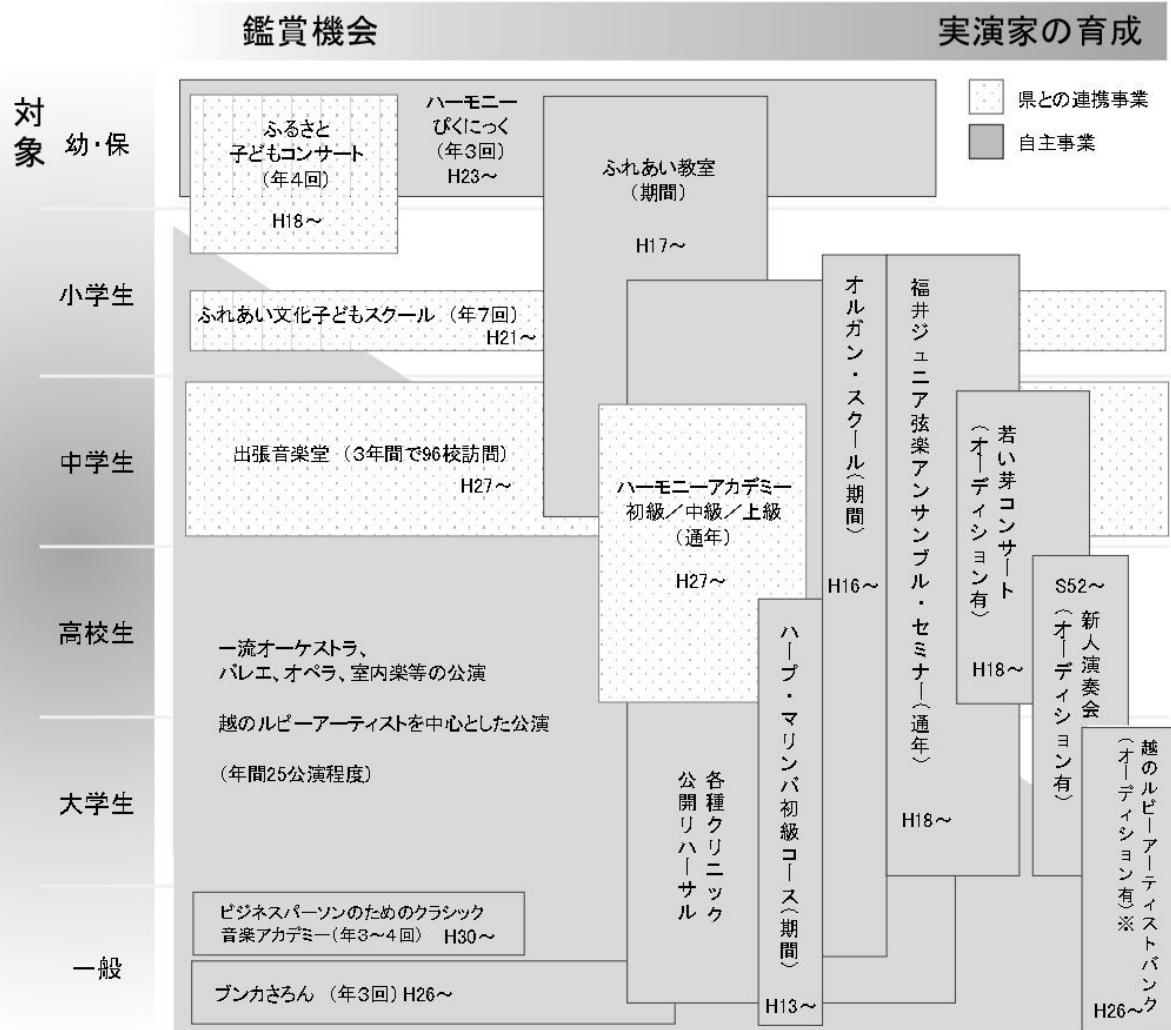
(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

県内で唯一、音楽制作の専門人材を有したクラシック音楽専用ホールであり、その設備および音響特性について「世界最高水準」との評価を得ている当施設は、“総ての県民のための「マイホール」”というスローガンのもと、芸術文化への親しみや高い誇りの醸成を目指し、下図に示す通りの多様なスタイルで事業を提供している。国内外から第一級のアーティストを招いて開催する鑑賞公演事業、生涯教育の視点に立った普及啓発事業、未来へと受け継いでいく人材育成事業の3つの事業推進の柱が有機的に連携し合い、創造的な効果を生み出すようにプログラミングされていることが当施設の事業構造の大きな特徴である。

[福井県立音楽堂（ハーモニーホールふくい）年間事業計画]



※越のルビーアーティストとは、福井県出身または在住、もしくは福井県内での音楽研鑽経験があるプロの演奏家。登録にはオーディション合格もしくは音楽祭等への出演が必要

本助成により、鑑賞・普及啓発・人材育成のすべての事業において、量・質の充実をはかり、当施設の独自色をより強く打ち出した「福井オーダーメイド」と言えるオンリーワン企画の数々を県民に届けることができた。

COVID-19 禍の深刻な影響を受けた鑑賞事業のひとつ「ベートーヴェンの室内楽」においては、出演者の変更や演目の調整をプラス要素ととらえ、同じく公演自粛期間中に立ち上げた WEB 講座と連動させるなど新たな工夫も凝らし、より深く生演奏を愉しめる公演として届けることができた。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【COVID-19 禍にあって、高い信頼を得た生演奏公演】

今年度助成を受けた4つの公演事業（公演中止となった海外オーケストラ公演を除く）は、すべて夏季以降の公演再開後に計画していた当事業団オリジナルの企画である。県民が待望したコンサートホールでの生演奏の機会を、それぞれ地域色豊かな鑑賞公演として開催できたことで、来場者の満足度は95.6%という結果につながった。またコンサートのために外出することへの自粛ムードや、高齢者の感染による重篤化傾向という負の世情に反して、93.8%という高い着券率を記録したことは、県内はもちろん、国内の文化施設をリードする形で打ち出した当事業団の感染症対策指針と行動基準に対する支持と安心感の表れであったと考える。

【越のルビーアーティストの躍進】

当事業団では、毎年「越のルビーアーティスト育成事業」の一環として「越のルビーアーティストバンク」に登録している福井ゆかりの演奏家が主役となる公演事業を行っており、今年度は生誕記念年を迎えたベートーヴェンの3大ピアノ・ソナタを3人のピアニストが弾き分ける「私のベートーヴェン」公演を実施した。3人は既に県内学校機関へ出張演奏、また公的機関からの依頼演奏等で実績を積んでいることから、大きな期待を集め、同公演は追加公演を決定、それぞれチケットが売り切れるほどの人気を博した。他、「ニューイヤーコンサート」（公演事業）のソリストとして、また乳幼児向けの「秋の子ども音楽会」（普及啓発事業）においても越のルビーアーティストを起用、いずれも完売を達成。人材育成事業から羽ばたいた演奏家たちが、公演事業の顔となって優れた演奏を披露し、県民の厚い支持を受けてさらなるキャリアアップに邁進する、当事業団の創造的な事業計画が多く成果を生んだ年度であったと言える。

【子どもたちの音楽環境を守り、モチベーションを高める】

今年度はCOVID-19禍によって学業環境はさることながら、音楽活動も脅かされた子どもたちにとって苦難の年度であった。そんな中でも、小～大学生を対象として開講し、例年3月に成果発表会コンサートを行う「福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー」事業（令和元年度（2020年3月）はCOVID-19拡大防止の観点から事業中止）を無事に実施でき、成果発表会はOB・OGの友情出演も得て、2年越しの子どもたちの想いを果たせた有意義なコンサートとなった。他、公演事業のソリストを務めた福井ゆかりのアーティストによる県内高校へのアウトリーチ活動（演奏）、オーケストラとの共演〈ふれあい文化子どもスクール／助成申請外事業〉のために集った県下の吹奏楽部生徒を対象としたクリニックを計画に沿って実施。将来の地域文化を担う子どもたちへの体験機会提供を通して、活動意欲向上に努めた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【公演事業等における人材（ディレクター）育成】

補助対象事業において、COVID-19 拡大防止対策や各事業への協賛や補助等取得に起因する事象で、それぞれに対処法を担当ディレクターが考案。他のディレクターメンバー、チーフディレクター、プロデューサーとのチームワークにより創意工夫をした一年度間であった。アーティストの国内外での往来自粛や観客の密回避等、コンサート運営には厳しい条件の中で、多くのディスカッションを経て《発想の蓄積》ができた。詳細は以下の通り。

・各所で COVID-19 禍対応が浸透・定着していない中で、通常公演業務の他に番組収録、県内高校訪問を行った。担当ディレクターは収録業務や機材に関する知識取得、学校内の演奏環境整備・調整があった他、各所での検温や手指衛生などの感染拡大防止対策やそれらに対する相互の意識のすり合わせなど、単なる公演制作業務のみでは体験することのないノウハウを得ることができた。

・アーティストの渡航制限により中止になった公演のために急遽代替公演を仕立てた。公演実施決定から本番までの限られた時間内で、公演後の動画公開に向け、担当ディレクターが本公演の講師の意向をヒアリングし、レクチャー部分の映像資料を作成。同ディレクターにとっては初の試みで、今後へのよい学びになった。

・経済産業省の「Go To イベントキャンペーン」に参加し、全国的に感染拡大状況にある中 2021 年 1 月のニューイヤーコンサートを売り切った。経産省ではキャンペーン開始当時、当方のような公益財団法人をイベント登録主催者として想定していなかったため、登録許可がおりるまでに時間がかかった。同省及びキャンペーン事務局がイベント主催や運営にかかる多種多様な業種を理解できるよう、票券担当ディレクターが事務局側に根気強くレクチャーをした。この情報は劇場音楽堂を運営する同様の公益財団法人内で共有した。

【経営面】

当ホールでは、全ての自主公演事業に対し県内優良企業から協賛（冠協賛という）を得ている。公演中止を余儀なくされた公演については、当然冠協賛を得られなくなるが、協賛総額を減額して法人協賛に乗り換えていただき、1/4 相当額は他の自主公演チケットを進呈することで他公演の集客にもつなげるなどの工夫を行った。結果、過去 3 年度間の協賛金収入に比べ、減少幅は約 3 割にとどめることができた。その他、文化庁、経済産業省、公立文化施設協会等の補助事業を積極活用し、厳しい状況の中、事業運営を継続することができ、何より、今後の持続可能な組織であり続けるためのノウハウが蓄積された。

【劇場・音楽堂等間のネットワーク】

当ホールチーフ・ディレクターが劇場・音楽堂等連絡協議会の事務局として参加し始め、COVID-19 にかかる各種情報をいち早くキャッチし、ホール運営に生かしている。また、プロデューサーが全国公立文化施設協会に当ホールの COVID-19 対策指針を積極的に示すことで同協会の研修会の講師として選抜され、当ホールの指針を全国に示すなど、関連機関とのネットワークをより強固にしている。

【本県ゆかりのアーティスト（越のルビーアーティスト）との連携】

当事業団が運営する本県ゆかりのアーティスト登録の演奏家を、福井県共々積極活用し、演奏家支援に注力したことで、来日、来県演奏家が少ない中において貴重な戦力になる演奏家と当事業団との信頼性が深まった。

